



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ISO 9001:2015に対する組織の対応
- 2-私の提言 “もったいない”と後悔しない! 学会参加が“学びの機会”
- 2-ルポルタージュ 研究会ワークショップ報告
- 3-6月の入会者紹介/教員公募/デミング賞/論文募集/行事案内
- 4-行事案内/各賞表彰/第45年度役員体制役割分担

ISO 9001:2015に対する組織の対応

(有)福丸マネジメントテクノ 福丸 典芳

1. はじめに

ISO 9001は2015年9月に発行されたので、ISO 9001の認証組織は3年間で2015年版に移行完了する必要がある。このため、要求事項の意図を十分理解したうえで対応することが必要である。

2. 改定の趣旨

今回の改訂では、①変化する世界に適應する、②顧客を満足させる組織の能力を強化する、③将来に向けて一貫性のある基盤を提供する、④組織が置かれているますます複雑になる環境を反映する、⑤すべての利害関係者のニーズを反映する、⑥他のマネジメントシステムと統合することを主眼としている。

3. 2008年版との相違点

主な変更点は、①規格の構造にISO/IEC専門業務用指針の附属書SLを採用、②リスクに基づく考え方を導入、③QMSの方針及び目標と組織の戦略との密接な関係付け、④文書類に対する一層の柔軟性を持たせている点である。規格の構造は、4組織の状況、5リーダーシップ、6計画、7支援、8運用、9パフォーマンス評価、10改善となっている。

4.1組織の事業環境及びQMSの能力に影響する外部・内部の課題を理解すること、4.2顧客及び法令・規制要

求事項だけでなく、QMSに密接に関連する（QMSの運営管理に重大なリスクを与える）利害関係者及びその要求事項を考慮すること、6.1QMSの計画策定では、リスク及び機会への取組みを行うこと、トップマネジメントのリーダーシップに関する役割が強化されている。

以上のことから、QMSのみで運営管理することは組織の事業運営に効果的かつ効率的でないので、事業プロセスとQMS要求事項との統合を行うことが明確にされている。

これ以外にも、7.1.6組織の知識に関する新たな要求事項も追加されており、その他の要求事項も一部追加修正されているので内容を把握することが大切である。

4. 移行にあたっての注意点

(a) QMS運営管理担当者の規格の理解

社外・社内研修で要求事項の意図を理解する。特に、ISO 9000の箇条2の基本概念（品質、品質マネジメントシステム、組織の状況、利害関係者など）と品質マネジメントの原則（顧客重視、リーダーシップ、人々の積極的参加、プロセスアプローチ、改善、客観的事実に基づく意思決定、関係性管理）を理解することで、ISO 9001の理解が高まる。

(b) トップマネジメントへの説明

2015年版の規格改正の考え方とト

ップマネジメントの役割が強化され、さらに事業活動との一体化が図られていることを重点的に説明する。説明にあたっては、ISO 9001の序文を中心に説明する。特にQMSのPDCAサイクル（方針管理）とプロセスのSDCAサイクル（日常管理）が、より明確になったことを説明する。

(c) 社員への教育・訓練

要求事項の考え方とその意図を中心に置き、特に仕事との関係を示しながら解説する。

(d) 内部監査員の教育・訓練

QMSのPDCAサイクルとプロセスのSDCAサイクルの知識及び有効性に関する監査技術の教育・訓練を実施する。

(e) 規程類の改訂

今回の改訂では、品質マニュアルの作成及び6つの文書化要求事項は削除された。しかし、標準化の体系に基づいて要求事項に関連する規程類の見直しを行うことが大切である。

なお、品質マニュアルを作成する際には、要求事項の項番どおりに作成する必要はなく、事業プロセスとの統合を考慮して、事業活動の実態に合った構造にすることが効果的である。

(f) 移行計画の作成

規格発行後、3年間で移行完了させる必要があるため、移行計画を早急に作成することが大切である。

● 私の提言 ●

“もったいない”と後悔しない！
学会参加が“学びの機会”

クリエイティブ マインド 代表 高木 美作恵



戦後、日本経済の発展に大きく寄与してきた品質管理の歴史は、先達の志を持った奮励努力が日本の良さ・強みとして

その礎を築き、度重なる経済危機を乗り越える原動力になってきました。特に、品質管理が経営の中で大きな役割を担い、経営の柱として貢献することを証明してきました。中でも、「人財」の育成は、多くの企業が「品質管理は勉強に始まり、勉強に終わる」「人づくりはモノづくり」「品質より人質を上げる」「仕事（使命）が人をつくる」とし

て、質の高いマネジメント力で、“人が育つ”環境やしくみづくりに鋭意努力し続けています。

そして、日本企業特有の強みとして、さまざまな環境変化に対応しながらも“人づくり”の大切さは途切れることなく、引き継がれています。

しかし、学ぶ機会も情報も乏しい時代に工業化時代を支えた先達の貪欲に学び、根気強く研究・実践し、使命感をもって新たな技術革新をし続けた努力を想うと、学ぶ機会に恵まれた今の環境は、大きく異なります。それぞれの時代において、悩みは尽きないものですが、私は、現役時代を振り返り“もったいない”と強く感じていることがあります。

それは、一歩外に目を向けると、社

内では得られない学びの場が多いにもかかわらず、その機会を逃し、恩恵を受ける人が意外と少ないことです。私自身、本学会行事に参加するようになったのは、退職する1年前で、学会からのお声掛けでした。参加して驚いたことは、充実した行事を沢山用意し、質の高い学習機会を広げられることに心底感動し、何故もっと早く参加しなかったのかと後悔したことを忘れることができません。本学会ビジョンは、必要とする皆さんのために活動しており、環境変化に対応する、新しい技術・手法の研究・開発の推進に寄与し、得られた成果を産業界・社会に普及させる役割を担っています。豊かな社会を目指すために尽くす“志と覚悟”が感じられます。学会の行事や活動への参画は、現役世代の自己啓発・相互啓発の絶好の機会です。

チャンスがあるのに“もったいない”と後悔しない為にも、本学会はもとより、多くの学び成長する機会を得て、品質を原点とする日本の未来に向けて、大きな力になるものと確信しています。

第44期研究開発ワークショップを開催しました

安井 清一（研究開発委員会 委員長）

9月19日(土)に、本部・支部研究会、部会、特別委員会が一堂に会し、一年間の研究活動を報告し合いました。本ワークショップは今年で3回目を迎え、過去2回とも、今後の研究の方向性について活発な議論が行われましたが、今回もそれに負けじ劣らじと予定時刻を約30分オーバーするほどでした。

現在、学会全体で10の研究会、3つの部会、2つの特別委員会があります。研究会は、本部、中部支部、関西支部に所属するものがあり、本部では医療経営の総合的「質」研究会、グローバル品質管理教育研究会、サービス産業における顧客価値創造研究会、信頼性・安全性研究会、テクノメトリックス研究会の5研究会、中部支部では産学連携現地現物研究会、中部医療の質管理研究会の2研究会、関西支部では科学的先手管理アプローチ研究会、統計的品質情報技術開発研究会、品質管理教育教材開発研究会の3研究会が活動中です。部会は、医療の質・安全部会、QMS有効活用及び審査研究部会、ソフトウェア部会の3つがあり、特別委員会は安全・安心社会技術連携特別委員会、TQE特別委

員会の2つがあります。いずれの会も活動的であり、研究発表会での発表はもちろんのこと、シンポジウムの開催、研究・活動成果を書籍にまとめた会もありました。本年度は、医療の質・安全部会から「組織で保証する医療の質 QMSアプローチ」、医療経営の総合的「質」研究会から「院内医療事故調査の指針 第2版」、産学連携現地現物研究会から「開発・設計に必要な統計的品質管理」が出版されました。また、サービス産業における顧客価値創造研究会からは次年度に「NeoP7 事例集（仮題）」が出版される予定です。

各会共通して活動期間が長く、発足当時の問題・課題は解決され、研究対象が発展的に広がっており、心理学や社会学、経営学、情報科学・情報工学といった他の学問領域からの知識の取り込みが必要になるテーマも出てきています。発表後の討論では、新メンバーの必要性、各会の魅力を伝えるための広報の必要性、品質管理教育が議論されました。品質管理発展のために人を巻き込む仕組み作りを再認識した有意義な会でした。

2015年6月の入会者紹介

2015年6月24日の資格審査において、下記の通り正会員15名、準会員2名、職域会員1名の入会が承認されました。

(正会員15名) ○越後 雅博 (日本光電工業) ○西岡 昭彦 (ライトアップコンサルティングサービス) ○牟田 茂 (DNV GL ビジネス・アシユアランス・ジャパン) ○天野 雅仁 ○難波陽介 (家畜改良事業団) ○佐藤 泰 (シチズン時計マニュファクチャリング) ○村田 太志 (イオンディライトアカデミー) ○中山 徹也 (パナソニック液晶ディスプレイ) ○後藤 登 (住友電気工業) ○寺崎 定臣 ○倉田恒彦 (三菱化学) ○糟谷 徹 (共同カイテック) ○八嶋 浩二 (エビナ電化工業) ○林 和樹・畝山 直巳 (パナソニック デバイスエンジニアリング)

(準会員2名) ○山中 涼平 (立命館大学) ○LIU ZONGHAN (文教大学)

(職域会員1名) ○後藤 清一 (カテックス)

正会員：2136名

準会員：55名

職域会員：28名

賛助会員：155社200口

公共会員：18口

デミング賞委員会 (委員長 榊原 定征) において、2015年度のデミング賞大賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月11日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞大賞

National Engineering Industries Limited (インド)

2. デミング賞本賞

蛇川 忠暉 氏 トヨタ自動車株式会社 顧問、日野自動車株式会社 特任顧問

3. デミング賞

株式会社キャタラー (静岡県掛川市)

CPRAM Company Limited, Ready to Eat Food Business (タイ)

株式会社GSユアサ 産業電池電源事業部 産業電池生産本部 (京都府京都市)

4. 日経品質管理文献賞 (文献名五十音順)

(1)「顧客満足CSの科学と顧客価値創造の戦略

ーグローバル生産文化と日本文化の強みを生かすものコトづくり発想ー」

圓川 隆夫、フランク・ビョーン 著

(2)「システムの信頼性と安全性」

田中 健次 著

(3)「組織で保証する医療の質 QMSアプローチ」

飯塚 悦功、棟近 雅彦、水流 聡子 監修、QMS-H研究会出版委員会 著

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

行 事 案 内

●第383回事業所見学会 (関西)

テーマ：D-egg (同志社大学発インキュベーション施設) における産官学連携による起業支援を通じた新規産業創出と地域経済発展への取り組み

日 時：2015年11月27日(金)13:30~16:45

見学先：D-egg [同志社大学連携型起業家育成施設]

定 員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費：会 員2,000円非会員 4,000円

準会員1,000円一般学生2,000円

※当日払い

申込方法：10月送付の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h271127

●第96回クオリティトーク (本部)

テーマ：小集団改善活動を再活性化するためのリチーミング

ゲスト：川西由美子氏

(ランスタッド EAP総研)

日 時：2015年12月2日(水)18:00~20:30

会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル 5階研修室

定 員：30名

教員公募

岡山大学 大学院自然科学研究科 教員公募

1. 公募人員 助教 (任期5年、再任あり) : 1名
2. 所 属 大学院自然科学研究科産業創成工学専攻知能機械システム学講座 生産知能学教育研究分野 (学部では工学部機械システム系学科)
3. 着任時期 平成28年4月1日以降のできるだけ早い時期
4. 詳 細 ホームページをご覧ください。
http://www.gnst.okayama-u.ac.jp/other/koubo_index.html
5. 応募締切 平成27年11月30日 (月) 必着
6. 書類送付先および問合せ

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1

岡山大学大学院自然科学研究科産業創成工学専攻知能機械システム学講座 (工学部機械システム系学科)

生産知能学教育研究分野 助教選考委員会 委員長 有蘭 育生

電話：086-251-8223 FAX：086-251-8224

e-mail：arizono@okayama-u.ac.jp

参加費：会員3,500円 非会員4,500円

準会員・一般学生2,500円

(含軽食・当日払い)

申込方法：本部事務局宛E-mailまたは
FAXにてお申し込みください。

詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/
index.html#h271202

●第16回「安全・安心のための管理技
術と社会環境」ワークショップ

日時：2015年12月25日(金)13:00~17:30

会場：日本科学技術連盟東高円寺ビル
2階講堂

定員：130名

参加費：2,000円 ※当日払い

申込締切：12月18日(金)

プログラム：

「運輸分野における事故調査の現状と課題」

松本 陽氏 (運輸安全委員会)

「医療分野における事故調査の現状と課題」

西澤寛俊氏 (全日本病院協会)

「原子力分野における事故調査の現状と
課題」

五福明夫氏 (岡山大学)

パネルディスカッション

コーディネーター：

中條武志氏 (中央大学)

パネラー：講演者、

石橋 明氏 (安全マネジメント研究所)

芳賀 繁氏 (立教大学)

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html

詳細：http://www.jsqc.org/q/news/events/
index.html#h271225

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟東高円寺ビル内

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島2-4-27

新藤田ビル11階

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail:kansai@jsqc.org

各賞表彰

第45回通常総会において、第44年度最優秀論文賞、研究奨励賞、品質技術賞3件、品質管理推進功労賞2氏の授賞および表彰が行われた。

【第44年度最優秀論文賞】

『カンファレンス行列を用いた3水準スクリーニング実験における追加試行』

鈴木 理史氏 (トア再保険(株))

田中 研太郎氏 (成蹊大学)

宮川 雅巳氏 (東京工業大学)

「品質」44, 4, pp. 65-74 (2014)

【第44年度研究奨励賞】

『タグチのT法における項目選択に関する研究』

河田 紘志氏 (早稲田大学 現(株)みずほフィナンシャルグループ)

「品質」45, 2, pp. 49-63 (2015)

【第44年度品質技術賞】

『工業分野での構造方程式モデリングによる複雑な因果構造の解明』

近藤 拓氏 (アイシン・エイ・ダブリュ(株))

「品質」44, 4, pp. 14-18 (2014)

『ソフトウェア計量管理のためのQCD統合構造モデル』

打矢 隆司氏 (株)筑波総合研究所)

「品質」45, 1, pp. 98-115 (2015)

『パラメーター設計とT法を融合した開発手法の提案』

細川 哲夫氏 (株)リコー)

「品質」45, 2, pp. 64-72 (2015)

【2015年度 品質管理推進功労賞】

岩本 伸夫氏 中部品質管理協会 (元(株)デンソー)

松本 哲夫氏 ユニチカ(株)

第45年度役員体制決まる

会長	椿 広計	統計センター
副会長	末岡 徹	地圏環境テクノロジー
理事	水流 聡子	東京大学
	綾野 克俊	東海大学
	新木 純	積水化学工業
	安藤 之裕	技術士
	伊藤 誠	筑波大学
	猪原 正守	大阪電気通信大学
	小野寺将人	日本科学技術連盟
	兼子 毅	東京都市大学
	河村 敏彦	島根大学
	國澤 英雄	中部学院大学
	近藤 賢	積水化学工業
	鈴木 知道	東京理科大学
	住本 守	元 ソニー
	関 庸一	群馬大学
	永田 靖	早稲田大学
	藤本 眞男	日本規格協会
	古谷 健夫	トヨタ自動車
	前川 恒久	元 日立プラント
	光藤 義郎	文化学園大学
	安井 清一	東京理科大学
	山田 秀	筑波大学
	綿民 誠	ジェイテクト
監事	荒井 秀明	コマツ
	田中 健次	電気通信大学
	立林 和夫	元 富士ゼロックス
顧問	大久保尚武	積水化学工業
	中條 武志	中央大学

第45年度役員役割分担表

総合企画	◎椿 ○末岡 ○水流
三者(JUSE, JSA, JSQC)調整	◎椿 ○新木 ○兼子
論文誌編集	◎鈴木(知)
学会誌編集	◎永田
庶務	◎山田
規定	◎藤本
会員サービス	◎河村
広報	◎前川 ○兼子
事業	◎綾野
研究開発	◎安井
国際(ANQ)	◎水流
選挙管理	◎山田
標準	◎住本
FMES/横幹連合	◎関 ○兼子
中部支部	◎井川 ○綿民
関西支部	◎近藤 ○森田
最優秀論文賞/研究奨励賞	◎水流 ○鈴木(知)
品質技術賞	◎末岡 ○永田
品質管理推進功労賞	◎椿 ○末岡 ○水流
Total Quality Science編集	◎山田 ○鈴木(知)
会計	◎小野寺
研究助成特別	◎國澤
QC相談室特別	◎猪原
JSQC選書特別	◎飯塚(悦)
安全・安心社会技術連盟特別	◎伊藤 ○中條
TQE特別委員会	◎前川 ○鈴木(和)
ソフトウェア部会	◎長坂 ○三浦 ○渡辺(喜)
QMS有関性および審査研究部会	◎福丸 ○平林
医療の質・安全部会	◎棟近 ○永井 ○水流

◎委員長, 支部長, 部会長 ○副委員長, 幹事長, 副部会長